

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1896 号

Excellent prognosis following endoscopic resection of patients with rectal neuroendocrine tumors despite the frequent presence of lymphovascular invasion

(直腸 NET 内視鏡摘除例の長期予後と脈管侵襲の臨床的意義)

関口 正宇 (せきぐち まさう)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、直腸 Neuroendocrine tumor に対する内視鏡治療の長期成績を明らかにし、さらには脈管侵襲を系統的に評価して長期成績と照らし合わせることでその臨床的意義を検証した論文である。これまで、直腸 Neuroendocrine tumor に対する内視鏡治療の長期成績に関してはデータが乏しい状況であったが、そのような中、本論文は、その良好な長期成績を明確に示している。さらには、直腸 Neuroendocrine tumor の脈管侵襲を系統的に評価したような研究はこれまで皆無に等しかったが、本論文では、全例の脈管侵襲を免疫染色・特殊染色を用いて系統的に評価し、小さな直腸 Neuroendocrine tumor でも非常に高い割合では脈管侵襲が見られることを初めて明らかにしている。さらには、そのような脈管侵襲が陽性の病変でも、他に明らかな転移危険因子がないような場合は内視鏡治療のみでも長期成績が良好なことを示し、そのような病変における脈管侵襲の臨床的意義に重要な疑問を投げかけている。以上の点で、本論文は臨床的に非常に意義のある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。